

【KXとは? 私たちが目指すものは?】

KX(カイシャ・トランスフォーメーション)とは、“カイシャ”(=昭和モデルから脱却できない日本企業)を壊し、人生100年時代の“会社”を創る社会変革ムーブメントです。

なぜこういうムーブメントを起こそうとしているのか。

その起点は、私たちライフシフト・ジャパンのビジョン、ミッションにあります。

私たちは、創業時に以下のようなビジョンを掲げました。

私たちは、一人でも多くの方が、

「人生100年時代」をワクワク、楽しく生きていける、日本発の「ライフシフト社会」を創りたい

そして、ミッションとして、以下の5つの項目を謳いました。

- ① 私たちは、一人ひとりが、自分の人生の主人公として生きていくための「オーナーシップ」を獲得するためのサポートを提供し続けます。
- ② 私たちは、一人ひとりが、自分の中にある価値軸に出会うためのサポートを提供し続けます。
- ③ 私たちは、一人ひとりの変身資産を「見える化」し、さらにその変身資産を豊かにするためのサポートを提供し続けます。
- ④ 私たちは、一人ひとりのライフデザインを規定してきた、日本型雇用慣行を革新し、個人の「組織からの自立」を促進します。
- ⑤ 私たちは、一人ひとりの「キャリア自律」を促進し、個人と組織の新しい関係を提案し続けます。

このミッション④⑤を果たすべく、「カイシャの未来研究会2025」を発足。

「人生100年時代」における、企業と個人の新しい関係の探索をスタートしました。

では、これまでの企業と個人の関係とはどのようなものだったのか。

日本企業は、人を大切にする、人を育てるといふ他国の企業にない姿勢をもっている。今後もそれは大切にしていけるべきではないか。しかし、企業がありたい方向や状態に人を縛りつけてきた、つまり企業が上、ひとは下、という関係は改めていけるべきではないか。そんな、よくある議論の中から、「そもそも会社って何だろう?」という大きな問いが生まれました。

会社法では、会社を法人という形で擬人化し、意志ある存在と定義しています。しかし、会社という言葉の原義は「同じ志をもって物事を行う集団。結社/仲間」です。そう、会社という実態は「ない」のです。会社とはフィクション。そこにあるのは「“想い”を共有する人が集まる“関係”の場」なのです。そして、その本来の意味や価値が、時代の変化とともに大きく失われてきた。かつては共有されてた“想い”がどこかに行ってしまっている。カイシャという存在があたかも意志を持つように自己目的化し、一人ひとりの“想い”は置き去りにされてしまっている。問題の本質はそこにありました。

では、カイシャはどう変わればいいのか。

そこに集う一人ひとりが「人生100年時代」をワクワク、楽しく生きていけるためには、どうなればいいのか。

研究会が掲げたスローガンは「会社を『出会いの社(やしろ)』にしよう」でした。

会社を、自身の「想い」に気づく場所にしよう。

「旅の仲間」に出会う場所にしよう。

「変身資産」を高める場所にしよう。

そして人生の「主人公」になれる場所にしよう。

そんな基本方針が定まりました。

では、『出会いの社(やしろ)』はどこかにあるのか。研究会が考えている未来企業は、すでに生まれているのか。萌芽企業を探し出し、経営者とメンバーの話をじっくりと聞き、“ヒト・ドリブン経営で行こう”というウェブ連載を展開。タニタ、サイボウズ、ヤッホーブルーイング、ニュースタンダード、キュービック、ソニックガーデン、エンファクトリー、伯食屋、ママスクエアというステキな10のフラッグシップ企業から、実に多くを学びました。それぞれが極めて独自のエコシステムを形成していました。しかし、そこには共通する考え方やシステムがありました。

こうした一連の活動を通して浮かび上がってきたのが、KXの5つのコンセプト。

“わがままセントリック”

“旅の仲間バラエティ”

“つながりリデザイン”

“想いドリブン”

“変態インフィニティ”

です。

.....
会社のメンバー一人ひとりが、自分らしく、あるがまま、素の自分でいられることを大切にしてほしい。**わがままセントリック**であってほしい。会社という幻想から、自身で創り上げてしまった前提や思い込みから自分を解放することから、KXは始まるのです。

会社のメンバー一人ひとりが、自分とは個性も持ち味も異なる、様々な仲間と出会える環境を大切にしてほしい。**旅の仲間バラエティ**であってほしい。人は、ひとりでは変わることはできません。何事もなせません。探索の旅に出るためには旅の仲間が必要なのです。

会社のメンバー一人ひとりが、自分の居場所と思えるコミュニティに所属し、豊かなつながりを得られるようにしてほしい。**つながりをリデザイン**してほしい。会社とは、つまりは“関係”の場。つながりとは、会社そのもの。そして、つながりで、人は変わるのです。

会社のメンバー一人ひとりが、仕事や生活についての自分自身のさまざまな想いがかなえられていることを大切にしてほしい。**想いドリブン**であってほしい。一人ひとりの想いの表出こそが、KXのドライブ、事業創造のドライブ、そして経営のドライブなのです。

会社のメンバー一人ひとりが、仕事を通して新たな自分へと変化し、成長し続けていくことを大切にしてほしい。変態インフィニティであってほしい。人生100年時代とは、変わり続け、学び続ける時代。それができる会社を、人生100年時代は待望しているのです。

.....

この5つのコンセプトは、つまり、会社が「“想い”を共有する人が集まる“関係”の場」という本来の姿を取り戻してほしい、というメッセージでもあります。